



新潟市歴史博物館  
博物館ニュース

# 帆樫成林

Vol.43

梅から桜の季節へ

## 「帆樫成林」とは？

帆柱が林のように多く立つ様子を表した語。人が多く出入りする活気ある「みなと」をイメージしました。

## CONTENTS

<b>特集1</b>	<b>新旧館長対談 ふたりが語る「みなとびあ」</b>	<b>P.2~3</b>
<b>特集2</b>	<b>平成30年度企画展 キラリ★新潟(美)の刀剣展</b>	<b>P.4</b>
歴史さんぽ	船上で平島あたりの中世を想う	P.5
おすすめの一冊	「西遊草」	P.5
みなとびあ研究notes	明治期の船とみなとの姿	P.6
館長日記	墓地の眺め	P.7
収蔵資料紹介	絵葉書「新潟農園」	P.7
博物館あちらこちら	博物館本館前の河戸	P.8

# 帆樫成林

—はんしょうせいりん—

新潟市歴史博物館  
博物館ニュース  
vol.43



■ 帆樫成林「はんしょうせいりん」第43号 ■ 発行日 平成30年4月25日  
■ 編集・発行／新潟市歴史博物館 〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10  
■ 印刷／株式会社ウヰザップ

## 【たいげんのひろばプログラム】 楽しみながら、遊びながら、昔のことを学びます。

日時	タイトル	内容	申込み・対象・参加費
4月28日 <sup>土</sup> ・29日 <sup>日</sup> 14:00~15:30	こいのぼりをつくろう	ビニール袋を使ったかわいいこいのぼりと風車を作ります。	申込み不要・材料がなくなり次第終了・無料
5月5日 <sup>土</sup> <sup>祭</sup> 14:00~15:30	紙カブつくり	かぶることができるカブを大きな紙で作ります。	申込み不要・材料がなくなり次第終了・無料
5月6日 <sup>日</sup> 10:00~15:00	ボランティアフェスティバル2018	旧税関のペーパークラフトや、よろいを着る体験など、遊べるプログラム満載!	申込み不要・定員なし・無料
5月12日 <sup>土</sup> 10:00~12:00	みなとびあワラ部	ワラゾウリづくりの自主練習をします。初心者の方もどうぞ。	ワラ部部員が対象です。
5月13日 <sup>日</sup> 14:00~15:00	さらさら砂絵	身近な砂を使って、かわいい砂絵をつくります。	申込み不要・材料がなくなり次第終了・無料
5月19日 <sup>土</sup> 14:00~15:30	みなとびあもめん部	綿から糸をつくります。綿をやわらかくしたり、糸を紡いだりする道具を使ってみましょう。	もめん部部員が対象です。
5月20日 <sup>日</sup> 14:00~15:30	こども歴史クラブ 「ミニチュア土偶をつくろう」	土偶づくりを通じて、粘土を焼いて道具にすることを体験します。	こども歴史クラブ部員が対象です。

お申込みは、電子メール・往復はがきで当館まで。

### 現在 開催中の企画展

#### キラリ★新潟(美)の刀剣展

日本美術刀剣保存協会新潟支部会員が所蔵する刀剣を中心に、古刀から現代刀まで、新潟市内で所蔵される刀身・刀装具約70点を展示します。

**会期** 2018年4月14日(土)~6月3日(日)

**休館日** 毎週月曜日(※4月30日は開館)、5月8日(火)

**観覧料** 大人500円(400円)、高校生・大学生300円(240円)、小学生・中学生200円(160円)

※( )内は20名以上の団体料金  
※土・日曜日及び祝日は小学生・中学生は無料  
※企画展の観覧券で、常設展もご覧いただけます。

**主催** 新潟市歴史博物館 日本美術刀剣保存協会新潟支部 新潟日报社 NST

**後援** 朝日新聞新潟総局 毎日新聞新潟支局 読売新聞新潟支局 日本経済新聞社新潟支局 産経新聞新潟支局 BSN新潟放送 TeNYテレビ新潟 UX新潟テレビ21 エフエムラジオ新潟 FM PORT 79.0 FM KENTO

#### 関連事業

- 目で楽しむ刀剣(展示鑑賞会) 毎週日曜日 午後1時30分から(5月6日は午後3時30分から) 約60分間 ※事前申し込み不要。当日の観覧料が必要です(小・中学生無料)。
- 耳から学ぶ刀剣(公開講座) 日本刀の魅力とその楽しみ方 講師:近藤昌敏氏(日本美術刀剣保存協会新潟支部支部長) 日時:5月6日(日) 午後1時30分~3時 会場:本館2階セミナー室 定員:80名(当日先着順) 参加費:当日の観覧券が必要です。小・中学生無料。 ※事前申し込み不要。

### 博物館 あちらこちら

博物館本館前の河戸

博物館本館は二代目新潟市庁舎の外観デザインを取り入れた建物で、前面には堀があります。堀は同市庁舎前にあった西堀を再現したものです。堀の両側には柳が植えられ、かつての街中の風情が伝わります。再現された堀端には、階段があって下に降りられるようになっています。これは河戸と呼ばれ、堀の水が流れていたところに洗い場として使われた場所です。かつては堀が人々の生活の一部としてあったことがわかると思います。街中の堀は、現在埋め立てられなくなってしまいました。博物館本館前は往時の新潟の姿をしのぶ場所となっています。



### 次回 企画展

#### にいがた 船と港の150年

開港後150年のみなとの歴史を紡いできた入港船舶を紹介するとともに、航路や湾岸施設の移り変わりを概観します。

**【会期】** 2018年7月14日(土)~8月19日(日)

**【休館日】** 毎週月曜日(7月16日、8月13日は開館)

**【観覧料】** 一般300円(240円)、大学生・高校生200円(160円)、中学生・小学生100円(80円)

※( )内は20名以上の団体料金  
※土・日曜日及び祝日は中学生・小学生は無料  
※企画展の観覧券で、常設展もご覧いただけます。

### 博物館講座

当館学芸員が調査・研究をすすめているテーマについて、毎月第4日曜日にお話します。

**【時間】** 13:30~15:00

**【会場】** 本館2階セミナー室

**【申込】** 不要(当日受付・定員80人程度)

**【資料代】** 100円(資料のない回は無料)

- ◆ 5月の講座:5月27日(日) 「アニメの時代考証~シアター新作の舞台裏」 講師:森 行人
- ◆ 6月の講座:6月24日(日) 「関西所在の画から絵師・絵師をさぐる」 講師:中村里那

## お知らせ

- 5月18日(金)のシアターは全日新作アニメを上映します。なお、「国際博物館の日」として観覧無料です。
- 6月11日(月)~18日(月)資料燻蒸のため休館です。

**編集 後記** 43号では、小林昌二館長の退職にあたり、新館長となった伊東祐之副館長との対談を特集しました。紙幅の関係から掲載できなかった話題もありますが、いずれも自然と市民の話となり、それに対してみなとびあは何ができるのかに帰着することが印象的でした。みなとびあは伊東新館長のもと、小林前館長にもご助力いただきながら、これからも市民とともに歩む博物館として活動していきます。(中村)

■ お問い合わせ・申込みは博物館まで…

新潟市歴史博物館 みなとびあ

住所:〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10

Tel: 025-225-6111 Fax: 025-225-6130

E-mail: museum@nchm.jp http://www.nchm.jp

【休館日】 毎週月曜日、祝日の翌日・年末年始(12/28~1/3)

【開館時間】 (4-9月)9:30~18:00 / (10-3月)9:30~17:00

2017. 5. 28 現在

みなとびあ歴史発見プロジェクトは、こどもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、まもなく開港150周年を迎える新潟の街をみんなで盛り上げていこう!という事業です。

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。

**NST 日和山五合目** **北陸ガス** **NSGグループ** **Water Shuttle**

**本間組** **田中屋本店** **堀川** **新潟「いづち」**

# ふたりが語る《みなとぴあ》

小林昌二館長に代わって、伊東祐之副館長が今年度より館長に就任しました。設立から関わってきたお二人から見ると「みなとぴあ」の姿とは？

## ●みなとぴあの個性

「伊東」小林先生は、みなとぴあの運営協議員として設立から関わっていただき、二〇一〇年に館長に就任されました。それから八年間、本当におつかれさまでした。

「小林」充分なことができなかったと思っています。とくに、運営協議員から実施していく側となつて最初の頃は、多岐にわたる事業をどう全体として動かしているのか、なかなか把握できませんでした。地域やボランティアなど色々なつながりも具体的に伝えてきて、博物館は生き物なのだと感じました。

他館の館長と交流する機会があり、それぞれ館がおかれている状況の中でどうやっていくか考えているのを知って、館長としての意欲をもらいました。また、他館の取り組みを見ていく中で、平塚市博物館は市民の調査活動が活発で、市民同士が勉強するサークルがたくさんあり、それぞれの活動を発表する文化祭のような展示会が開かれています。みなとぴあも、設置目的に「歴史を媒介とした市民交流を行う」とあり、市民が共に勉強し合うことを奨励しています。

「伊東」みなとぴあの設立において参考にさせてもらった博物館に、平塚市博物館も含まれています。場としての博物館に

おいて、機能としての博物館が市民と交流し、新しい文化を生み出していくことを使命と考え、「歴史を媒介とした市民交流」という内容を設置目的に入れました。そういったことを明記する社会教育施設は当時新潟市にはほかになかったと思います。

「小林」まさに、それがみなとぴあの個性であり、市民と協力してやっていくということが自然にできていると思います。

新潟市では各地区でまちづくりが盛んです。そういったところで活躍している市民団体と協力し、様々な団体を集めてその活動を紹介するという、平塚市博物館の文化祭のような企画展もやってみていいのではないのでしょうか。

## ●企画展の成果

「小林」これまでの企画展でいうと、「新潟美人展」(二〇一一年)は新潟三業協同組合(二)、「第四国立銀行展」(二〇一六年)は地域の企業と、各業界の協力を得て開催することができました。

とくに第四銀行は、社員は金融の仕事をしていると考えているでしょうが、単にその仕事で地域に貢献しているというだけではなく、企業の営み自体が、広い視野で見ると新潟のアイデンティティの一部となり、地域に貢献している。新潟の歴史の中に位置づけられ、市の博物館の展示と

して有意義なのだといいことを、知ってもらう機会になったと思います。

それから、二〇一〇年の「お店やさん」(むかしのくらし展)では、学芸員の能力に感心しました。同年六月に閉店した大和デパートのレストランの食品サンプルを、人々の思い出が詰まった市民の財産と位置づけ、いち早く収集して展示したのです。企画展では、親子連れのお客様などがとても楽しみに見てくださっていました。

「伊東」市民が自分たちの生活を見直し、そこに価値を見出してもらうという企画展が良いと思っています。

それでいうと「みなとの仕事」展(二〇一五年)なども、もつとお金をかけて深めてやれば、また違ったのかなと思います。以前に建築の企画展もありましたが、どこの会社がつくったものかなど建設業界についてきちんと触れることができれば、市民がより自分たちのこととして捉え直す機会となったかもしれません。

「小林」どの企画展でも、その方針は貫かれていて感じています。ただ、それを多くの人が喜んでくれる形で受け止めてもらえるよう展示をつくるというところが充分でない、なかなか来館者数という成果にはつながらないのが現状かなと思います。



第四国立銀行展の開場式

「伊東」数値としては成果が出ませんが、展示をつくる過程でモノの価値を見出すということについては、だいぶできていると思います。単に「珍しい」「美しい」「懐かしい」ということで終わらない、企画展の「意義付け」を行ってきました。ただ、それもまだ充分ではないと感じています。

## ●歴史をおもしろく楽しく学ぶ

「小林」歴史を扱う中で感じているのは、絵画などは背景を何も知らなくてもあ

る程度感じるものがありますが、歴史はすぐにはピンとこないモノが対象で、「学び」がないと面白さがわかりません。

博物館は「学び」の場と言われます。学ぶ気持ちがある人はいいですが、そういう人は多くありません。「おもしろいかどうか」で判断されるので、その観点を持つて間口を広くする必要があります。「おもしろく楽しく学ぶ」という、「学び」の世界観を持つことが、博物館として理想的だと思います。

「伊東」確かに、現在のみなとぴあの課題である調査研究においても、美術や自然分野では比較的技術がいりません。たとえば話に出た平塚市博物館では、セミの抜け殻を集めてその生態を調査するというのをやっていた、それは小学生でも参加できます。しかし、歴史の場合は一定の技能を習得しないと調査に参加できないと思われることが多いです。敷居を低くして、みんなが参加できる調査のありかたを考える必要がありますね。

昨年実施した墓石調査(3)では、碑文は読むことができなくても、形を判断して大きさを測るといったところで参加して



小林昌二 (こばやし しょうじ)  
新潟市生まれ、京都大学大学院修了。愛媛大学助教授、新潟大学教授などを経て、2010年より新潟市歴史博物館館長を務める。渾足欄の探求をライフワークとする。

歴史叙述とセットになつてはじめて成り立つものだと考えています。伝えてわかつてもらえないと、成り立たちません。なので、歴史を伝えていく博物館は、歴史学にとって必要なパーツの一つだといえると思います。

そういう博物館の役割、博物館が何をするといいかを、ど

もらいました。そういった作業によってこんなことが分かったときちんと示すことで、参加者も自分の作業に意義を感じることができれば、「市民と一緒に調査」をしたといえるでしょう。

もちろん技能を習得して参加してもらう調査もできるといいますが、習得しなくても参加できる場を作っていく必要があるでしょうね。

「小林」古文書を読めるようになるとか、技能の習得にはその喜びもありますが、それはまた別の専門的な楽しみですが、今回の館長講座では、動物に注目しました(4)。日本書紀などに登場する動物を見ていきながら、古代史における動物の扱いを新潟と関連づけて考えてみようというものです。動物といった入口から、おもしろく歴史に接近するということを考えてみました。

博物館で「おもしろく楽しく学ぶ」ということができれば、「一生物学」が大事な高齢化社会の時代において、自然と博物館が人々に受け入れられていくと思います。

「伊東」歴史学というのは、研究者が自分で調べて納得するものではなく、

館長室にいると職員たちのやりとりが聞こえてきます。伊東さんは、みなとぴあの設立から内部のことをよく知っていて、また、ものごとの理解が非常に正確だと感じます。新潟の歴史と伝統がどこに息づいているかを見極めながらやってこられたと思います。その上で、その先どうなるのか、「こうなるといい」というみなとぴあの将来像を示すことができる方です。それを示すことによって、職員がそれぞれの課題を見つけ努力していくことができるでしょう。そのように博物館の内的力を育てられるだろうと期待しています。

## ●新館長への期待

「小林」みなとぴあはこれから、学芸員や事務方を含め、人の成長と密接に関わって力をつけていく必要があると考えています。



伊東祐之 (いとう すけゆき)  
長野県生まれ、新潟市で育つ。新潟大学卒、東北大学大学院修了。新潟県史・市史の編纂、新潟市歴史博物館の設立・運営に関わり、2011年より副館長を務める。

「伊東」博物館に関わる人々がステップアップしていくことが必要だということですね。

「小林」自分自身も今後について考えていた時期でもあり、ちょうど伊東さんが定年退職で副館長職を退任されるということで、館長をお願いするかたちで進めさせてもらいました。私も新潟におりま

すし、必要なことがあれば、声をかけてもらえればと思います。

「伊東」まだまだ色々お世話になると思います。よろしくお願ひします。

註

- (1) 設置目的「新潟地域の歴史的特性を明らかにし、市民の歴史に対する理解を深めるとともに、歴史を媒介とした市民交流を行うことにより、市民の社会的活動及び文化的活動に寄与すること」(新潟市歴史博物館条例第一条)
- (2) 新潟市の芸妓と料亭、貸会場の組合。三業とは料亭待合茶屋芸妓置屋の総称。
- (3) 二〇一八年七月十一日計二回にわたって実施した調査。参加者を公募して実施した。
- (4) 「古代の鳥獣魚類と越後国」(三月二十五日)。館長講座は、毎年三月に館長がコマーシャル・ライターとなり開催する全四回の講座。

# キラリ★新潟〈美〉の刀剣展

木村 一貫

この春の企画展として、六月三日まで「キラリ★新潟 〈美〉の刀剣展」を開催しています。この展覧会は、日本美術刀剣保存協会（以下「日刀保」）新潟支部との共催で実現した企画で、すべて同支部会員の愛蔵品で構成されています。

当館では、平成十七（二〇〇五）年三月に、人間国宝・天田昭次（あまた あきつぐ 一九二七―二〇一三）

特の鑑定・鑑賞文化を継承しています。たとえば、鍛え方の違いが生み出す表情に「地肌」があります。この地肌の様態を表すのに「板目」「鏡」「梨地」「小糠」といった身近なものを引用した用語があります。慶長年間に出版された鑑定本『古今銘尽』で、すでにこれらは定型化された言い回しになっていました。目利きたちの機知に富んだ形容が、詩歌のように脈々と語りつがれているのです。

るとかけ離れています。けれども「斬る」ことを使命とするこの無機質な金属器に、言葉や形象を介しながら有機的なぬくもりを見出し、そのひそかな愉悅を仲間と共感しあう点では、等しく魔性の輝きに導かれた者たちに相違ありません。

マルテンサイトという組織のことで、すが、目にもみえなくても確かに感じられるかすかな相を、なんとも風雅に言い表しています。かのイマヌエル・カントは、香りは比喩でしか表せないと言いました。もしも、この一口の調和美を成立させているのが人智を超えた不可視の力なのだとしたら、目利きがメタファーを好んで用いることにも、刀剣女子が名刀にイケメンを重ねてみることに、成

の仕事を紹介する展覧会を開催しました。これは当時現役だった刀匠の作刀世界を掘り下げること、製鉄技術をめぐる人間の営みの歴史を伝えようという趣旨の展覧会でした。いつぼう今回の展覧会は、共催者である日刀保新潟支部の方々の思いを形にしたいと考え、鑑賞対象としての個々の刀剣の魅力にスポットライトをあてています。

いうまでもなく、刀剣は武器です。しかしその機能が事実上無化されている現代においても、日本刀は独

他方、刀剣を擬人化して、そのキャラクターを育成するというシミュレーションゲームが、近年インターネットを通じて爆発的にヒットしました。その中心的な愛好者は若い女性たちで、彼女らが各地の展覧会やイベントの集客数を押し上げ、日本刀のイメージを様変わりさせていると度々報じられました。

中しましたが、それでも絵画や彫刻や他の工芸と一緒に並べて「作品」と呼ぶとき、そこに何か居心地の悪さを覚えます。おそらく、古来戦闘や神事と深く結びついてきた日本刀の特別な象徴性が、私たちの意識の底に残っているからでしょう。実際、刀剣ほど「伝説」の誘惑を刺激する造形物はほかにみあたりません。

程とわずけるのです。今回、展示の解説文はすべて日刀保新潟支部長の近藤昌敏氏に執筆いただきました。その匂い立つような言葉にも、ぜひ注目していただきたいと思えます。（きむら ひとやす 学芸員）

天田昭次作（個人蔵） 撮影・中澤和広（スタジオユ）



西川水門と排水機場(左) 排水機場の場所に移転前の川越波切御名号堂があった。

取まったといえます。そして、鈴木家では御名号堂を建て、御名号をお守りしてきたとことです。ただし、現在の御名号堂は、昭和55（1980）年、西川水門脇の排水機場を整備する際に、そこから移転してきたものです。当時とは地形も変わり、親鸞聖人がどこから乗船し、どこに着岸したかなど正確には分かりませんが、船上から移転前の御名号堂があった水門脇あたりを眺め、そこから鳥屋野方面に視線を向けると、何となく親鸞聖人の渡船を追体験している気分になります。

また平島は、近年、中世の新潟があった場所として注目されています。魚沼市弘誓寺所蔵「木造不動明王坐像」の底部に、この木造が永禄9（1566）年に越後国蒲原郡平嶋郷新潟津不動院の本尊として造られたことが墨書きされていたことから、平嶋郷に新潟津があった、つまり平島に新潟があったと考えられるようになりました。

現在の平島と中世の平嶋の位置が必ずしも一致するとは限りませんが、平島は中世の新潟を考えさせる場所であり、そこを船で訪ねてみるのも楽しいものです。

小林 隆幸（こばやし たかゆき 副館長）

## 歴史さんぽ



### 船上で平島あたりの中世を想う

新潟市西区平島・小新・寺地

みなとびあの船着き場から、新潟ふるさと村を目指してウォーターシャトルに乗船します。信濃川を40分ほど遡ると、右手方向に分流する関屋分水に差し掛かります。そして、その上流右手に西川が信濃川に接続する西川水門が見えてきます。このあたりが平島です。平島とその対岸の鳥屋野、さらに上流の山田には、越後七不思議をはじめとする親鸞聖人にまつわる伝説があります。建永2（1207）年、親鸞聖人は越後に流罪となり、上越に滞在後、鳥屋野に草庵を結び、蒲原地方で布教したとされます。鳥屋野には大正11（1922）年に国の天然記念物に指定された七不思議の逆さ竹の藪があります。

西川水門から900メートルほど上流に船が進むと、右手に川越波切御名号堂の屋根が見えてきます。この建物も親鸞伝説を語る旧跡です。平島で説法を終えた親鸞聖人は、対岸の鳥屋野へ渡るため、鈴木新十郎が漕ぐ舟に乗ります。その時激しい嵐となり、舟を操ることができなくなります。親鸞聖人が懐の紙に御名号を書いて舟の先に貼ると、嵐が



川越波切御名号堂 中央の瓦葺で入母屋造の建物が御名号堂。

### おすすめの1冊

## 西遊草

安政二（一八五五）年、山形庄内の生まれで儒学者の清河八郎が、母を連れて伊勢参りを果たした記録です。海沿いに進み、善光寺を詣でて名古屋へ至り、伊勢に向かう行程ですが、途中「北国第一の大湊」新潟で一週間も滞在します。白山神社や浄光寺、日和山、行形亭などを訪れ、なにより江戸にも劣らぬ歌舞の工みなる土地で去妓を招いて酒宴を楽しみました。その後も亀田から新津を通り、越後七不思議として有名な柄目木の火井天然ガスや臭水油（石油）を見物しています。

本書の魅力の一つは、女性たちの旅の様子が窺われることです。共に出立した伯母は、家のことが気にかかりついに新潟で引き返してしまします。逆に新潟では、宿の気つ風のいい女将が、善光寺に参詣したいと言いつい出雲崎まで同行します。また、信濃との境である関川では、夜明け前に脇道を通って関所を抜けず。これは女性の出入りを厳しく制限していた関所において、暗黙の了解事でした。

約半年に及ぶ旅の大長編、読みやすい現代語訳も平凡社から刊行されています。

（中村 里那 学芸員）

## 西遊草

諸国大紀行

山形松勝一傳記



4621

岩波文庫

清河八郎 著

小山松勝一郎 校注

岩波書店

1993年12月

# 明治期の船とみなとの港

現代に生きる私たちが港としてイメージするのは、埠頭に着岸している船に直接、人が乗り込んだりモノが積み込まれたりする姿です。埠頭がなかったころは、碇泊している船に小船を寄せ、荷揚げをしていました。その姿を資料から見てみましょう。

## 新潟港での荷役

新潟港入港船のうち、西洋船の入港記録である『西洋形船舶留記』には、船型と船客数、積荷数、入出港日が記されています。明治十三(一八八〇)年四月二十六日に入港した三菱会社の汽船高千穂丸の例を見てみましょう。高千穂丸は神戸―小樽西回り航路に配備されていました。四月二日に神戸港を出港し、馬関(現下関)、境(現境港)、金石、伏木、佐渡夷港を経て、三、〇〇〇余りの積荷とともに二十六日に新潟港に入港します。そして、四月三十日夜十二時に新潟港を出港します。この五日間の高千穂丸の荷役は『西洋形船舶碇泊中見認日記』に詳しく記されています。これによると、四月二十六日朝は波が高く、港外への碇泊となり、また高波のため天渡船を通行させることができませんでした。午後に波が穏やかになったため、天渡船を本船につけ、乗客三〇〇人を順に上陸させました。この日、積

荷の上げ下ろしはできませんでした。翌二十七日は天気も良く波も静かで十分に荷下ろしができました。二十八日は雨で時間の経過とともに西よりの風が強くなり、通船の航行が不能となり、積荷の上げ下ろしができませんでした。二十九日は好天で波も無いため、荷物を十分に本船に積み入れることができました。三十日も引き続き荷物を積み入れ、夜中に新潟港を出港しました。明治十三年の『西洋形船舶留記』には、六九隻の入港が記録されていますが、その大半が入港後四〜五日で荷役し、出港しています。

しかし、天候によっては、期待通りの入港がかなわない船もありました。

同年十一月七日に入港した熊本丸です。熊本丸も三菱会社の汽船で神戸―小樽西回り航路に就航した船でした。十一月六日午後四時に前の經由地を出港し、翌日七日前七時三十分、乗組員五十六人、乗客一〇名、一〇、五二九個の積荷とともに、新潟港の碇泊場に到着し、錨を下ろしました。しかし、この日の午後三時三十分、夷に向かいます。十一日午前十一時三十分新潟港に戻り碇泊しています。十三日午後二時四十分、再び夷に向かいます。十五日午前八時三十分新潟港に戻ってきたものの、水戸口の波が高く荷役できないため、夷にとんぼ返りします。

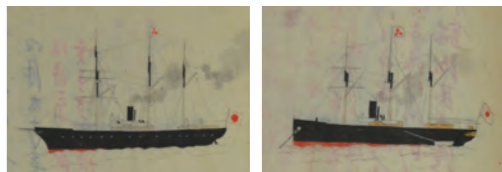
そして、十八日午前八時に新潟港に戻り、碇泊しますが、午後四時ごろから天気が荒れはじめ、暴風雨になったため、午後六時四十分夷に向けて出港しました。熊本丸は新潟入港から出港までの十二日間に四回もの夷港退避を余儀なくされています。熊本丸の港内での動きについては、先述の高千穂丸のような資料が残っておらず、この間、どの程度の荷揚げが新潟港で可能であったのかは定かではありませんが、新潟で下ろされるはずの積荷の大半は夷で下ろされたと思われるようです。

## 紅葉の見た新潟港

『金色夜叉』を発表し、すでに流行作家となっていた尾崎紅葉は病氣療養のため新潟を訪れました。明治三十二(一八九九)年の夏の事です。一連の出来事を『煙霞療養』として発表しています。紅葉は日和山から佐渡を眺め、佐渡への渡航を決意しました。七月八日の朝、佐渡へ渡るために度津丸に乗り込むまでを以下のように記しています。(前略)「暴風の警報があります、濱には信号標も出て居りますさうで。」暴風の警報、濱には信号標、唯風が出ると聞くのと執である。(中略)五時卅分の筈が六時になっても沙汰が無い、小一時間も彼此して漸く

## 藍野かおり

舢に載せた。船を行くのを見るに、櫓を用ゐずして、大形の櫓の長い撞木を両手に把つて握ねるやうに水を掻く、之を鍊櫓と称へる。船に二人棹を遣つて川



高千穂丸、熊本丸  
『西洋形船舶留記』より

口の岸辺を敵う連櫓の林の中に煙を揚ぐる五号度津丸に漕付けたが、はや此処等は高波を打つて、親く舢を寄せぬのである。乍ち昂つて即くと見れば、乍ち低く離れて了ふ、間を図つて僅に空身で飛込む始末。(後略)

水戸教が暴風の信号旗を表示するやうなときは港口も高波で舢から本船に乗り移るのもやつとであつた様子がわかります。明治期、使用する船は大型化する中、荷揚げや乗下船の方法は江戸時代と変わらず、天候に大きく左右されました。突然の高波に、荷役作業中の人夫が行方不明になつたこともありました。このような港の状況が変わるのは、竜が島に近代的な埠頭を持った港が作られる大正十五(一九二六)年のことでした。(あいの かおり 学芸員)

# 館長日記

新潟市歴史博物館 館長 伊東 祐之

## 墓地の眺め

新しくみなとぴあの館長を務めることになりました伊東祐之と申します。甘粕元館長や小林前館長とは違い、ずっと新潟市の職員をしてきました。私がいくらか詳しい分野も、古代ではなく、江戸時代や戦前の新潟町、新潟市関係のことです。特に町や村の普通の人々の暮らしや考え方などに関心があります。館長の器でも柄でもないと感じていますが、新潟の歴史文化の調査研究や発信に努めたいと思います。

NEXT21の展望階から西堀通を見下ろすと、墓石で埋まった墓地が広がっています。墓地というと墓石が並んでいるイメージです。しかし、思い起こすと、私が子供の頃、信州の母方の集落墓地では、土葬した所の上に自然石をおいて墓標としていました。人の葬り方は一様ではなかったのです。今年初めに開催した「ワンダーランド近世新潟町」展では、長善寺跡から出土した木の墓標や卒塔婆、出土状況を示す写真を展示しました。新潟町は



木製墓標の展示の様子

砂洲の町でしたから、墓石にする石は近くにありません。木もなかったでしょうが、石よりも木の方が運搬しやすく、家造りにも必要で入手しやすかったのでしょう。埋設した骨壺の上に、墓標として三メートルもある角柱を、半ばまで埋めて立てていたのです。

昨年度、文化庁から助成金を得て、みなとぴあが中心になって市民と西堀通の寺の江戸時代の墓石を調査しました。その成果の一つに、現存する墓石は十八世紀の半ば過ぎ以降の建立だとわかったことがあります。江戸時代前半の墓場は墓石ではなく角柱や板の墓標・卒塔婆が林立していたのです。

こうした墓地で新潟町の人々は何を、どのように祈っていたのでしょうか。墓石に変わったのはなぜでしょうか。一つのことと分かると、いくつもの新しい疑問や課題が生まれます。

## 収蔵資料紹介

### 絵葉書「新潟農園」

この絵葉書には、「新潟農園」の風景が写し出されています。左奥に花畑が広がり、噴水を囲む庭園で多くの人びとが散策を楽しんでいる様子が分かります。

新潟農園は、チューリップ、ヒヤシンスなどの球根の栽培・販売を行つた株式会社です。第四銀行頭取(三代目)・白勢春三が取締役社長となり、県内の財界人、地主らが出資して昭和七(一九三二)年に設立しました。国内への販売はもとよりチューリップの本場・オランダよりアメリカ太平洋沿岸に近い地の利を生かし、海外輸出を目標んだ事業でした。

新潟農園設立の立役者は、県のチューリップ生産の先駆けである中蒲原郡小合村(現秋葉区)の花弁農家・小田喜平太とされています(木村敬助「チューリップ・鬱金香―歩みと育てた人たち」二〇〇二年)。

前掲書によると、新潟県花卉球根協会会長であった小田が、チューリップなど花卉類のさらなる発展のため、同業の長尾次太郎と相談し、チューリップ栽培の普及を共に進めた県農務課技師の小山重の技術指導を受け、中蒲原郡長時に親交のあった新潟電力の片山三男三と話し合いました。そして白勢に資金協力を申込んで会社設立に至つ



たとあります。山の下の砂丘地を園場として整備し、球根を栽培した一方、咲いた花を観光に利用しました。その様を写したのがこの絵葉書です。観光客のため、東屋、喫茶店、野外音楽堂が設置されました。観光地に乏しい新潟市の新たな名所として注目され、広大な花畑は「東洋一」と宣伝されました。(渡邊 久美子 学芸員)